Welcome to Library ようこそ図書館へ

中央図書館 ☎23-4946
赤羽根図書館 ☎45-3426
渥美図書館 ☎33-1114
図書館HP

ホットニュース Hot News

◎中央図書館20周年記念イベント　ふしぎ文学入門編

「まずは、ここから踏み出そう！はじめの一歩」をテーマに、「ふしぎ文学」のプロである翻訳家の金原瑞人さんと文学評論家の東雅夫さん、あいち妖怪保存会の島田尚幸さんの3名がトークイベントを開催します。ぜひお越しください！

○日時:10月29日(土)午後5時30分～7時
○場所:中央図書館　くつろぎコーナー
○人数:50名(先着順)
○申し込み:9月23日(金・祝)午前10時～
　図書館に直接、または電話、Eメールにて
○問い合わせ:☎23-4946
※詳細は、図書館HP、館内ポスターをご覧ください。

▲ふしぎ文学コーナー

▲2018年のトークイベントの様子

オススメの本

細胞が自分を食べる オートファジーの謎
水島昇/著　PHP研究所
流行のプチ断食で注目のオートファジー。どんな作用をもたらすか、科学的にひもときます。

絵で見る統計　世界の国々に
ミレイア・トリウス/文　あすなろ書房
このテーマの世界一はどこの国?人口や国土の面積だけでなく、誕生日や血液型まで幅広く紹介されていて、親子で一緒に楽しめる本です。

History Inquiry Club 歴史探訪クラブ 其の225

文化財課(博物館) ☎22-1720
吉胡貝塚資料館 ☎22-8060
渥美郷土資料館 ☎33-1127
博物館HP　博物館インスタグラム

渡辺崋山に招かれた農学者・大蔵永常

江戸時代の三大農学者に数えられる大蔵永常とその著書『門田の栄』をご紹介します。

大蔵永常は、明和5年(1768)豊後国日田(現在の大分県日田市)に生まれました。その後、全国を巡り、諸国の農政を研究し、農業に関する本を次々に出版しました。彼は、米など穀物の栽培だけでなく、地域の特産物を作ることで農民を豊かにできるという理念を持っていました。やがて彼の活動は、田原藩家老渡辺崋山の知ることとなり、天保5年(1834)、崋山の推薦で田原藩産物方(特産物を扱う機関)に就任します。しかし、天保10年(1839)、崋山が蛮社の獄で蟄居を命じられたため、辞職させられてしまい、彼が田原で活躍したのはわずか5年ほどでした。活動期間は短いものの、永常は田原で多くの業績を残しました。その1つ、砂糖の製造をご紹介します。

『田原藩日記』には、天保6年11月に永常が砂糖を藩へ献上したと記録されています。永常は、野田や仁崎で砂糖の製造を始め、彼が興したこの産業は明治時代まで続いたとされています。

『門田の栄』は、天保6年(1835)に出版され、田原藩内に配られたようです。この本は言わば“農学の教科書”で、稲の掛け干しや必要な肥料の量などの情報が、農民にもわかりやすいように紹介されています。挿絵を描いているのは渡辺崋山で、稲刈りの場面や稲の緻密な解剖図などが、生き生きと描かれています。

この資料は、現在開催中の展覧会「渡辺崋山とゆかりの人たち」で10月2日(日)までご覧いただけます。

(学芸員　三宅良宜)

▲大蔵永常著、渡辺崋山挿画『門田の栄』(写本)
田原市博物館蔵